

# 市民文芸

## 歌壇

岩崎 聰之介 選

定年を間近に如求めしと子は電話にて声をはずます 山田 濱  
 プツプツと手をあわせたるチビ孫達じい空からじつと見てると 鎌田ねい子  
 稲刈りが今日終りしと姉の深夜の電話に安らぎて聞こゆ 大庭 良子  
 温泉場に親娘三味線聞こゆれば行き交う人ら歩み緩まず 鈴木 茂子  
 マスコミも挙げて注意を喚起せしに振り込め詐欺のニュースは続く 四竜 英夫  
 松風かつわ者どものその声か岩間に響む霊山の秋 後藤今朝雄  
 今までに見たこともない妻の姿趣味のパンフラワーに生き生きとして 遠藤 行夫  
 庭石に松のみどりに朝日かけあまねく差しして希望湧きくる 大槻 きよ  
 歓声を挙げて見し夜は幻か独りの座敷に遠花火聴く 石田みどり  
 枝豆をはじいて囁んで味わえば土と交わる老いの幸せ 阿部みさ子

【評】一首目、子どもさんの嬉しい思いを確かに汲んでおられる。こ高齢の作者だ。切なさを祈りもあろう。  
 二首目、粗さはあるが、お孫さん達への眼差しが温かい。絆が生きている。  
 三首目、ここの自然な運びのなかに、通い合う心が滲み出ている。

## 俳壇

遠藤 秋尾 選

明日よりも今を生きたよと夜学の師 山家 弘子  
 秋晴やこの上なしの牧場かな 福原 峯子  
 紺碧の空深くして鱗雲 岩松 隆志  
 木々の葉も何時しか秋の彩匂ふ 高子うこん  
 朝霧を茜に染めて日が昇る 跡部 祐子

## 柳壇

四電 英夫 選

【評】一句目、夜学の子らに、人の生き方までも説く先生である。教育とは、そうあるべきと思う。二句目は、秋晴れの牧場の素晴らしき風景を詠った句。  
 三句目は、鱗雲が季節の句。青空の一角に、鱗雲が浮かぶ映像が見える作品である。  
 俳句は季節を詠うものです。季重ねや切り字などの制約に注意しなければなりません。毎月第一日曜日に、本町のふれあいプラザで俳句初心者講座を開催していますので、お気軽にお越しください。連絡は山家弘子（☎251-8116）まで。

鶴鶴の孤高のひかり揺らしをり 服部 忠孝  
 直売の店の貸し鍋芋煮会 岩澤 伍峯  
 息災におはす証の梨とどく 石田みどり  
 風仙花弾けて飛んで街の角 遠藤 忠臣  
 月光をゆく黒猫の親子あり 跡部祐三郎

【評】一句目、一度に4人もノーベル賞を受賞する快挙。暗いニュースの多い日本に、希望の火を灯してくれた。頭腦の金メダル万歳。  
 二句目、わが子をほめられ、うれしくなるのは親の常。まして「お父さんにそっくり」なんて言われたら。下がる目尻がえびす顔。  
 三句目、円高、ドル安、株下落と、金融界は大混乱。しかし、庶民には縁遠い世界。「私には株も相場も関係ネエ」？

ノール賞暗い日本に火を灯す 水戸 光穂  
 ほめられて親馬鹿になる子煩悩 草野 清  
 株下落私たちには関係ない 高子うこん  
 枯れ木にも恋の花咲く長寿国 山田 守  
 自分には無縁と思った加齢臭 遠藤 行夫  
 夢でさえ小銭教えている私 大庭 良子

あとひと口思えど箸が止まらない 阿部はぎの  
 役人の倫理教育誰がやる 寺崎 悦子  
 栗むけば姑の笑顔が見えてくる 斎藤 典子  
 阿部みさ子

# 美しき市民総合芸術の舞台 第39回市民文化祭

昭和45年の河北巡回美術展をきっかけに始まった市民文化祭。市文化協会（林茂会長）が主催するこの催しも、今年で39回を数えました。今年も、11月1日に古典芸能などの発表（碧水園）と展示発表（中央公民館・2日まで開催）、3日には幅広いジャンルの芸能発表（中央公民館）が行われ、たくさんの人でにぎわいました。



▲320名を超える皆さんが練習の成果を披露した3日の芸能発表



- ①幅が1mを超える作品も出品された書道の部
- ②子ども能楽教室の皆さんによる袴能「土蜘蛛」
- ③姉妹都市の神奈川県海老名市から送られた作品も展示
- ④老若男女を問わず芸術作品を楽しむ来場者。作品を通して、制作者と来場者が心の交流を深めました。
- ⑤たくさんの来場者を魅了した生け花作品

11月1日に行われた碧水園での芸能発表では、文化祭全体の開会セレモニーが行われた後、子ども能楽教室の子どもたちが仕舞や袴能を披露したほか、3団体の皆さんが日ごろのけいこの成果を発表。同日と翌2日には中央公民館で展示部門の発表が行われ、11団体や一般参加など、150名を超える皆さんが制作した絵画や書道、短歌、俳句、川柳、陶芸、和紙人形、写真などの力作を、来場者が真剣な表情で見つめていました。また、3日には中央公民館大ホールで、芸能部門の発表会が行われました。23団体、約320名の皆さんが出演した発表会では、バレエや民謡、日本舞踊や詩吟などさまざまな分野の発表が行われ、会場に詰め駆けつけた多くの方が、次々と繰り返される舞台上、大きな拍手を送っていました。



# 国際コーナー International Corner

## 山に囲まれてしまった“男のカン”

白石に来て、私の住む環境は大きく様変わりしました。大都市と言われるシドニーでは車がないと不便ですし、車を持っていたので、その日の気分ですらでも長距離のドライブに出て行ったり、遠い海の海岸まで行き、そこで人生を振り返ったりしました。しかし、日本に来て一応国際免許は取りましたが、1年たっても車はまだ買っていませんし、日本で運転したこともありません。  
 白石では、シドニーと違ってストレス解消のためにドライブに出て行こうという気持ちがあまり起きません。また、市街地にあらゆる施設が集中していて、大変便利です。ですから今の私には、あまり車が必要ないのです！  
 しかし、少し考えてみると、本当にこの1年、以前と比べて、まるで猫の歩く範囲で暮らしているような気がしてなりません。それで先日、遠い山にどうしても行きたく欲しかったのですが、人に頼ったり、迷惑を掛けたりしたくなかったので、益岡公園経由で1人、山に向かって「散歩」に出たのです。公園から見える山の景色が、私を呼んでいました。最初、コースは小原当たりになりしようと思ったのですが、途中でどんどん道幅が狭くな

り、ついには歩くスペースがなくなってしまったので、方角を少し変え、鎌先温泉に向かって歩き始めました。山をどんどん登っていくと風が涼しくなり、気持ち良かったのですが、地図を持っていなかったの、「無事に着くかな」と悩み始めました。しかし、「まあ大丈夫だろう」と思い、“男のカン”に任せてしまったのです。ここまで読んでいただいた方はもうお分かりですね。そう、すっかり道に迷ってしまいました。右の道か、左の道か、どちらにしても目前にあるのは山に囲まれた田んぼのみ。周囲に家はいくつかありましたが、温泉に行く途中で途方に暮れる外国人はあまりいないでしょうから、「鎌先温泉はどこですか？」と急に聞いても驚かせるだけだろうと、迷惑を掛けないようにしました。それで「どうしようかな」と悩んでいたところ、運よくその日は近くの田んぼでイベントが行われていて、そこで取材していたカメラマンに救われました。  
 結局、温泉にゆっくりつかり、疲れ切った汗だくの体をリフレッシュすることができました。皆さんにもお勧めの「長い散歩」ですが、地図だけは絶対にお忘れなく！

# まちの話題 ~あの日、あの時~ Diary

## 第2回みちのくおとぎ民話フェスタ

11月3日、いきいきプラザで第2回みちのくおとぎ民話フェスタが開催されました。このイベントを主催したのは、国道113号で結ばれる山形県の南陽市と高島町、七ヶ宿町そして本市の2市2町で構成する国道113号観光推進協議会。この2市2町を結ぶ国道は「みちのくおとぎ街道」と呼ばれ、昔聞いたおとぎ話に出てきそうな風景がたくさん残っています。  
 会場となったいきいきプラザでは、すぎの子母親クラブとどんぐり母親クラブの皆さんによる「わらしこまつり」とボーイスカウト白石第一団の皆さんによる「野外活動まつり」も同時に開催され、お手玉やシャボン玉、パンづくりの体験など数多くの素朴な遊びのコーナーが設けられました。訪れた親子連れや観光客は、語り部の

皆さんそれぞれの地域の方言による昔話に、大人も子どもも真剣に聞き入っていました。



▲舞台も昔話を演出